

## 令和3年度 ユウスゲと貴重植物を守り育てる会活動報告

令和4年3月22日

## 1 伊吹山三合目保全活動の実績

## (1)活動日および参加者

令和3年3月19日~11月25日（定例活動は毎週日曜 8:30~12:00、不定期で平日実施）

活動日数 60日（R2：53日）

のべ参加者 192人（R1：194人）

## 2 主な保全活動の内容

## (1) 獣害防止ネット内の活動

## ①獣害防止ネットを引き上げ：3月19日、28日

- ・昨シーズンは少雪で雪解け早く3月中旬のスタート

## ②ネット点検・補修：4月~9月の間で少なくとも週1回実施

【結果】シカ等の侵入はなかったが、小さなネットの破れはほぼ毎回確認でき確認は不可欠。

## ③ネット内の植生の保護作業：5月~8月間で次の作業を実施

- ・ネット内のワラビ、スイバ、ススキ等の刈取り・抜き取り、
- ・ネットの際の手作業による草刈りや観察路（草刈り機）の草刈り等。
- ・登山道東側のネット保護エリアを一部拡大。

## 【結果】

- ・ササユリの開花した株が増加。ルリトラノオを始め季節ごとに様々な花が開花。
- ・ユウスゲの開花は昨年並みだが、アブラムシがシーズン後半に発生し開花が短期間に。
- ・高屋地区ネット内ではカタクリ群落が増大。エイザンスミレ等も株数増加。
- ・ネットの際も手刈り作業によりハクサンフウロをはじめ多くの花が登山道から観察できた。
- ・ネット内の一部でササ生育面積が拡大し他の植物を駆逐。

## ④ススキ等の全面刈り、ネット外への搬出：10月~11月

- ・リンドウの花期末後に草刈り機およびハンマーナイフモアで全面刈り。
- ・刈り取ったススキ等を搬出することで、翌年の植物の生育を促しアブラムシ発生防止。

## ⑤ネットの引き下げ：10月31日



ネット引き上げ



ネットの破れ補修



ユウスゲ群落



ニリンソウ群落



カタクリ群落



ササユリ



ルリトラノオ



全面刈り



草の搬出

## (2) 獣害防止ネットの外側

- ・クララ、オドリコソウ等のニホンジカの忌避植物などを除き、花の種類が激減。
- ・金属柵の設置予定エリアは、ほぼ全域で全面刈り実施。ただし、ススキを草刈り機で刈り取ったエリアはニホンジカの食害により一部裸地化が見られた。このため、当初計画通り 3 合目全体を囲む早急な金属柵の設置が必要。

## 2 植物観察会

4月雨天中止。5月参加者 15 人。6月参加者 11 名。以降、新型コロナウイルスのため中止。

## 3 ユウスゲまつり (2022 年 7 月 23 日)

- ・新型コロナ感染防止対策のため 48 名に限定し、2 年ぶりの実施。  
(マイクロバス定員の 1/2 の人数で移動し、検温、消毒液、マスクなどの感染対策)
- ・伊吹山の戦国時代の山城、「上平寺城跡」「弥高寺跡」を巡るコースも各地元団体と連携し実施。



三合目植物案内



上平寺城跡



## 4 環境学習への対応 (会員が講師として支援)

新型コロナの影響で伊吹山登山は中止となり、座学が中心となった。

- (1) 伊吹小学校 6月24日、10月1日、12月7日
- (2) 春照小学校 9月23日、9月28日
- (3) 伊吹山中学校 10月12日
- (4) 大東中学校 5月17日

## 5 情報発信チラシ「伊吹山花だより」の発行

- ・4月～9月に毎月発行。(通算 52～57 号)  
A4 両面カラー印刷  
1,500 枚印刷し、地元上野区全戸、市内の公共施設、伊吹山インフォメーションセンターに配置。
- ・米原市ホームページ(伊吹山ライブカメラのページ)に各号 PDF を掲載

### 伊吹山花だより



## NPO法人霊峰伊吹山の会 活動報告

2022.3.22

NPO 法人霊峰伊吹山の会 理事長 高橋滝治郎

## 1 会の設立経緯

令和2年：地元有志で自然再生協議会から資材の提供を受け、伊吹山中腹4合目～9合目の登山道周辺の環境保全、登山道補修作業開始

令和3年：任意団体「霊峰伊吹山の会」設立し、自然再生協議会および県・米原市とともに環境保全等の活動を実施

令和4年2月22日：NPO法人霊峰伊吹山の会を設立、登記。

メンバー：18名（設立時）

設立目的：この法人は、古くから多くの人々に様々な恩恵を与えてくれるふるさとの山、伊吹山の自然的・歴史的な環境の保全に関する事業、伊吹山の魅力や課題の発信等の事業を行うことで、豊かな伊吹山の環境を守り伊吹山の来訪者の満足度を高めるとともに、より多くの伊吹山ファンの獲得や交流人口の増加により地域の活性化や地域住民の誇り、地元への愛着度を高め、地域の持続的な発展や伊吹山を健全な姿で次世代に引き継ぐことを目的とする。（定款第3条）

活動内容：①伊吹山の自然的、歴史的環境等の保全、②植生の回復、③伊吹山の魅力や課題等の情報発信、④環境学習の支援ほか

## 2 令和3年度の事業報告

## (1) 登山道の補修、雨水流入防止等

ニホンジカによる深刻な食害と頻発する大雨により広範囲に裸地化した斜面から土砂が流出し、登山道が損壊している。安全な登山を確保するため、登山道補修、登山道に流れ込む雨水の流入緩和措置等を行った。

資材として板材、丸太杭、鉄筋を活用し、3合目からボッカして6合目辺りまで荷揚げした。

○実施日数：12回（3月～11月） ○会メンバーの参加数：のべ72人



## (2) 登山道の誘導ロープの設置、管理

7合目より上部が土砂流出により浮石が多くなり落石のリスクが高まっているため、登山道に誘導ロープを設置するとともに、登山者の引っ張りや獣害のため適宜メンテナンスを実施した。

○シーズン当初実施日：令和3年3月11日（以降、適宜メンテナンスを実施）



## (3) 米原市、滋賀県との協働作業

米原市職員および県職員 38 名の参加を頂き、5合目周辺の登山道修復および6合目への板材や鉄杭などのポッカ（歩荷）を実施した。



## 3 課題と今後の対応

### (1) 6合目より上部の登山道の補修

補修作業は現在6合目避難小屋辺りまでであり、引き続きそれより上部の登山道の補修を進める必要がある。

### (2) 補修した登山道のメンテナンス

補修後も大雨により登山道が被災するリスクがあり、適切に維持管理する必要がある。

### (3) 資材のポッカの対応

必要となる補修用資材を現場までポッカする業務は相当な負担がり、県や市と連携しながら対応を検討する必要がある。

### (4) 【新規】裸地化した斜面の植生回復

対処療法的な登山道補修だけでなく、被害を未然に防止するため裸地化した斜面の植生回復、保水力の回復が喫緊の課題。（別紙1で説明します。）

### (5) 【新規】山頂辺りの雑木の部分的な伐採

山頂のニホンジカが獣害防止柵に執拗にアタックして内部に侵入し、植生回復が進まない主要因の一つに、シカの棲みか適した雑木帯の存在が考えられる。このため、この雑木帯の一部を試験的に伐採する。（別紙2で説明します。）

## 4 その他

NPO 法人霊峰伊吹山の会 ホームページ

<https://reihoibuki.jimdofree.com>

## 【新規事業】裸地化した斜面の植生回復モデル事業

## 1 目的

対処療法的な登山道補修だけでなく、被害を未然に防止するため裸地化した斜面の植生回復、保水力の回復が喫緊の課題。このため、広大な裸地斜面の植生回復および登山道の保全等を図るため、3か所の試験エリアを設定し、植生回復モデル事業を実施する。

実施に当たっては、伊吹山を守る自然再生協議会顧問の先生方のご意見を伺うとともに、令和4年事業終了後に事業報告を同協議会に行い、検証や必要な計画の見直しを行う。

このモデル事業の成果をもとに、県や国に対して伊吹山の植生回復事業実施の提案を行うなど、一刻も早い伊吹山の自然再生に資することを目的とする。

## 2 事業のエリア設定

裸地化した斜面の中で、①登山道8合目西側の中央ルンゼ辺り、②7合目東側の斜面、③7合目西側の斜面、各エリアの土砂流入の影響が少ない各エリアの上部に約150㎡を設定



## 3 具体的な事業（案）

試験エリアで、次の①～③の対策を組み合わせ、植生回復調査を実施。

- ①土留め工やヤシネット敷設による土壌保全
- ②ニホンジカの忌避植物や伊吹山在来種の種子散布、苗の植付け
- ③ニホンジカの食害を防ぐネット設置

\*例えば、忌避植物種子散布エリアはネット設置なし、土留工のみのエリアなど、対照区も設置。種子の散布は、種子選定の上採取の必要あり、散布は早くて今秋以降の見込み。

(伊吹薬草の里文化センターとも連携)

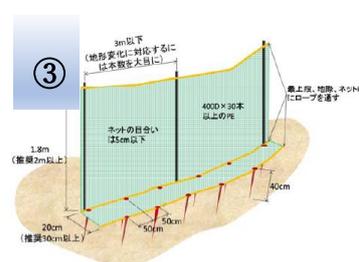


図 4.1.7 AF 規格により設置した防鹿柵のイメージ

## 4 その他事業にあたっての留意事項

- ・土壌保全は県策定「ニホンジカ森林土壌保全対策指針」等の専門的知識を参考にする。
- ・種子散布は外来種、移入種防止に注意し、専門家の意見を適宜伺う。
- ・作業にあたっては落石防止など登山者の安全最優先とする。
- ・冬山登山者のルートも踏まえ対策工法を検討。

## 【新規事業】 山頂部の雑木地帯の部分的な伐採事業

## 1 目的

ニホンジカの住みかとなっている雑木帯の立木密度を 50%まで低下させることで、ニホンジカの草原植物群落内への侵入を抑えて食害を防止し、早期に多様な植物群落を取り戻す。

## 2 現況

山頂エリア東登山道付近の雑木帯は立木密度が高く、ニホンジカが身を隠すのに好都合であり住みかとなっている。

獣害防止ネットが張られているが、執拗にネットを破って侵入を繰り返し（伊吹山を守る自然再生協議会高柳敦顧問 米原市長との新春対談）ネット内にニホンジカ数十頭が生息。

このため、特に山頂東側の植物群落の再生は進まず、ニホンジカの忌避植物のみが生息域を拡大するなど、深刻な食害の打撃を受けている。

（なお、三合目にはニホンジカが好むユウスゲ群落があり山頂同様に獣害防止ネットを設置しているが、内側に雑木帯がなく侵入圧力は格段に低く、見事に植生が回復。）



## 3 実施内容

ニホンジカの住みかとしての機能を減ずるため、山頂東登山道付近の雑木帯約 2.6ha（天然記念物指定面積約 79.4ha の約 3%）について、立木の 50%を目途に試験的に伐採。

- ・伐採した立木は、現地で枝打ちして積み上げ、草原植物の再生を促進。
- ・伊吹山来訪者への事業の説明板を設置。安全対策を実施。
- ・必要に応じ専門家の意見聴取。実施結果を本協議会で効果検証、今後の対策検討。
- ・本協議会で事業計画の承認、文化庁の天然記念物現状変更の承認が必要。
- ・市や県、文化庁と協議後の 6 月以降に実施したい。



## 4 関係機関の協力

危機的な状況にある天然記念物「伊吹山頂草原植物群落」を守り、次世代に健全な姿で引き継ぐとともに、来訪者の皆さんにも感動頂けるよう、この事業の実施にあたって本協議会会員団体のご理解とご協力をお願いします。